

読み聞かせボランティア

昨年度から「読み聞かせボランティア」の希望があった学校に、ボランティアの派遣をしています。今年も希望のあった学校に、ボランティアの方々から出かけていただくことになりました。時間帯は、学校の要望に合わせて、朝読書の時間、昼の放送、昼休み…と様々です。回数は、月に1回程度です。前々からボランティアの方々が入っている学校の中には「毎週」という学校もあります。

もし、読み聞かせボランティアをお願いしたいという希望がありましたら、お知らせください。時間帯や形を相談し、学校の要望に添うように実現していきます。

下の写真は、13日（月）の朝に行われた貝野小学校の様子です。



<下学年の様子>

<上学年の様子>

「楽しい読書出前授業」について 昨年度までは十日町市教育センターの事業として実施していた「楽しい読書出前授業」は、十日町情報館の事業として実施します。既に実施申込等を各学校にお送りしましたので、時期を見て申込をしてください。授業のパターンは、3つあります。

- ① 初めての授業…読書は好きか嫌いか？読書の意義は？と聞き、考えた後、本の紹介を聞く。
- ② 2回目の授業…読書生活は充実しているか？と聞き、充実のヒントを考えた後、本の紹介を聞く。
- ③ その後 …お気に入りの本を紹介し合った後、本の紹介を聞く。

何度か伺っているクラスでは、③のパターンになっています。自分のお気に入りの本を紹介し合う活動をしている子どもたちは、いつも楽しそうです。授業をきっかけに、本の話題が身近になり、お互いに本を紹介し合うことが日常で行われるようになるといいですね。

話題の本「AI vs 教科書が読めない子どもたち」(by 新井紀子)には、「読解力」の重要性が述べられていました。読書をすれば読解力がつくという単純な話ではありませんが、本に親しむ(読書習慣がある)子にしていくことは、読解力を育てるために重要な要素の1つです。何より、読書は人生を豊かにしてくれます。大人の責任として、子どもたちにとって本が身近になるように取り組んでいきましょう。

「読書好きな子を育てたい～「家読」のすすめ～」

4月21日（日）、川治小学校のPTA総会の前に「読書好きな子を育てたい～『家読』のすすめ～」というタイトルでお話をさせていただきました。保護者のみなさんに、読書の意義や良さを話した後、「今、自分に読書習慣がなくてもお子さんと一緒に読書習慣を身に付けていきましょう。」「1日15分の『家読』の時間を生み出しましょう。」と伝えました。